

一會社二月十三日 看來此際此處
ノ勧誘の若レ件、當年既備、元於解雇
十二月三十日付解説告了

一、是ヨリ先キ麻生、十三日霜夕ト同叶、
署出頭シ仲裁方、ハ諷刺シ様ニ玩夫事、而第
ナリ、訴ケル事アリ、又十二月坂ニ四軍自多田者、出
頭シ、麻生ト曰伊、口吻ヲ譲シタリ、去シ、曰下文
説、是矣、ト國人ヘキ事項ハ、會社何レノ迄
減、肯問題ヲ看過スルヤ否、古ニ三属ニ、麻生等
“同類ニシテ一氣、認リ得ハ、承服リ、肯ズル也”
如ク、會社於テ元仲裁事、裏情ヲ察ルシ共ル也
據標アリ

一、麻生坂口兩名、二百十吉日、高木文彦七、
稻庭ヨリ、次二回、会見、四十日、麻生ヨリ申
出、係ル今回、事件、國正園係者、責任ヲ問
“本ル”、開シテ、支店長、今後房傷者二拾
千鶴子、就其事又、於テ、責任、問入サルヘシ
ト、宣明、丁度、一、麻生、高爾考アリヨリ、遂入支
店長、即差、遣シ、高木田人、遣用、至テ帰
高也、ヨリ、シテ、希望シテ、原望、ヨリ、至テ
一十七日午後七時、三重震、在所、支店、三重、麻
生坂口兩名、北通、高木、右禪野、間、義小禪、
三新南、行者立會、上篇、支店長、有、三國、人會
観、廿五日、高木、支店長、有、三國、人會